帝塚山学院中学校高等学校

学校経営推進費　評価報告書（１年目）

標記について、下記のとおり提出します。

１．事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	英語教育の充実
評価指標	・実用英語検定準２級以上合格者の割合 ・実用英語検定２級以上合格者の割合 ・TOEIC&TOEICSWの目標スコアの達成率
計画名	「クラスサイズ克服とパーソナルサポート充実による英語４技能向上計画」

２．事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	（１）教育力の向上 ①６年一貫校の強みを活かし、中学校ではまず基礎学力と学習習慣の確立を図る。特に積み重ね教科である、英語と数学で複数教員による習熟度別授業を取り入れ、「できない」という意識をなくす。 ⑨ 将来的に生徒用デジタル教科書の導入や、オンライン教材などを効率的に授業内で活用するための環境整備の基盤として、住吉幼少中高全体のネットワークの再構築を検討する。
事業目標	Career（キャリア）・Art（アート）・English（イングリッシュ）を教育の柱として打ち立て、伝統ある「力の教育」を具体的な形で強化していく。本校のこの教育理念は、文系・理系・音楽系・美術系という多様な興味を持った生徒を育てるヴェルジェ（フランス語で果樹園を意味する）コースと、関西学院大学との提携コースである関学コース、両コースで追求されるものである。中高大10年一貫教育となる関学コースでは特に、英語の力を、生徒たちが将来21世紀の世界で活躍するための基礎力として重要視している。進学先となる関西学院大学は、2013年度からスーパーグローバル大学（SGU)に認定されており、高い英語力を備えて入学した生徒たちにとって理想的な教育・研究の場となっている。 2009年の関学コース開設以来、本校では英語力の向上に取り組んでおり、一定の成果を上げてきている。CEFR（外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠）に照らし合わせると、「基礎段階の言語使用者」と位置づけられる「A2レベル」まではほぼ達成してきている。それをもう一歩進め「自立した言語使用者」となるための「B1レベル」へと生徒たちの英語力を高めて大学へ送り出すことで、大学入学後の更なる活躍を推し進めたい。大学入学後の資格検定取得率・GPA・国際交流志向性等を調査することで、大学入学後の発達状況を追跡調査し、高大連携の効果的な指導法をも探ることができるであろう。 「英語力評価及び入学者選抜における資格・検定試験の活用促進について」（文部科学省初等中等教育局長及び高等教育局長）における「各試験団体のデータによるCEFRとの対照表」に挙げられた資格試験では、スピーキングとライティングというアウトプット力（発信力）を計測する試験が網羅されている。従来の日本の英語教育で充分に伸ばしきれいてない発信力向上が重視されていると考える。このスピーキングとライティングという技能を指導するに当たり、最も大きな障壁のひとつが、大きなクラスサイズである。「少人数指導」および「個別指導」が充分になされなければ、より多くの生徒が英語で発信する機会を享受し、正確な発信力を習得することは困難である。しかしそれを教員数の増加で実現するのは、特に私学においては難しい面も多い。本事業では、ICT機器を効果的に活用し、教員のICT活用能力を高めることで、クラスサイズの問題を克服し、生徒の英語による発信力を飛躍的に向上させ、その成果を英検の合格者数とTOEIC&TOEIC-SWの得点率で実証する。
整備した 設備・物品	① 多人数クラスで個別指導を可能にするICTソフトウェア・ハードウェア ② 自学自習用アプリケーション ③ 生徒用ICT機器（タブレット型パソコン1クラス生徒数および予備45台・関連充電機器・移動式管理庫） ④ 生徒検定受験料 ⑤ 追跡調査関連費用および統計処理ソフトウェア・ハードウェア
取組みの 主担・実施者	主担：英語科 実施者：「英検・TOEIC」担当教員
本年度の 取組内容	・機器の整備が全て終わったのが10月中旬であったこともあり、研究実践の期間が限られていたため、初年度は、指導の自由度が効きやすい高校３年生に限定して指導を行った。 ・受験サプリ登録クラス（２クラス83名）では、２人１グループに対し、２名の教員が同時にスピーキング活動（アウトプット）を約10分ずつ行い、その間、他の生徒は受験サプリで講義を聞き、知識のインプットを行った。こうすることで、インプットのみの授業運営にならず、1つの授業の中でインプットとアウトプット両方を行うことができた。スピーキングの指導には、TOEFL junior Comprehensiveのスピーキング教材を使用した。短い指導機関ではあったが、その指導を活かし、11月にはTOEFL junior Comprehensiveを受験した。 ・ライティング活動としては、生徒が個々にタブレット端末でライティングを行い、Google Drive上に保存。教師はノートPCから同じGoogle Driveにアクセスし、生徒のライティングをリアルタイムで閲覧しながら、個々に助言・指導を行った。従来は、歩き回りながら個別指導を行っていたが、効率が悪い上、手書きのライティングを読み解くのに時間がかかったりすることもあった。クリックひとつで素早く生徒のPC上のライティングにアクセスできるため、より頻繁に、かつ時間をかけて助言・指導を行うことができた。
成果の検証方法 と評価指標	検対象生徒 83名（高校3年生・受験サプリ利用） 2015年11月現在 「実用英語技能検定」準２級取得率98%・２級取得率 73% 2016年２月現在 「実用英語技能検定」準２級取得率99%・２級取得率 77% 「TOEFL junior Comprehensive」平均310.1・最高347
自己評価	・スピーキング活動の導入により、インプットのみの授業運営にならず、1つの授業の中でインプットとアウトプット両方を行うことができた。インプット40分、アウトプット10分という割合ではあるが、40人以上のクラスで、継続して毎時間アウトプットの時間、少人数で個別指導に近い指導を行う時間が取れるというメリットがあった。（◎） ・ライティングの指導には、当初、ヘッドフォンとマイクを活用する予定であったが、PCの設定がうまくいかず、前方から直接声をかけることになった。（△） ・生徒によってはタイピングのスキルが充分でない者もおり、また論理的思考という面でもより訓練が必要な者もいる。今後、国語科や情報科等との連携により、「英語以外」のスキルの向上も必要である。（〇）
次年度に向けて	・ライティング指導において、ヘッドフォンとマイクを活用できれば、より効率的になり、個別指導の効果も上がると考えれらるので、PCの設定を次年度に向けて行いたい。 ・教科間連携のきっかけとして、タイピングスキルと論理的思考力の育成を掲げて進めていきたい。 ・本年度は受験サプリを利用したが、より英語に特化した内容にするため、英語サプリ等、他のアプリケーションの活用を検討している。 ・外部英語試験の成績・成果が、今年度を上回るものにするため、より早い時期から系統的に指導を行う。 また、TOEIC&TOEIC-SWは受験料が1人15000円を超えるが、TOEFL junior Comprehensiveは、同様に４技能の力を計測でき、6,700円程度で実施できる。また、GTEC&GTEC Speaking Testについても、４技能検定でありかつ受験料5,500円程度であるので、英検とTOEFLまたはGTECという指標で成果を検証したいと考えている。